理事長の挨拶

NEURO2024 大会後記

小泉　修一
日本神経化学会　理事長

今年も本当に暑い夏でした。会員の皆さんは如何お過ごしでしょうか？その暑さがピークとも言える7月24日～27日の4日間、第67回日本神経化学会大会がNEURO2024として福岡国際センター（国際会議場+マリンメッセ福岡B）で開催されました。参加者は3,600名余りで、参加者数、演題数は過去最大規模、また規模だけでなく、研究分野及び参加者専門性も極めて多様性に富んだ素晴らしい合同大会となりました。口演会場、ポスター会場は、いずれも多くの人であふれ、暑い福岡で最高に熱い議論が交わされる大変活気のある大会であったと思います。ご参加頂き、活発に発表・議論して頂いた会員の皆様、本当にありがとうございました。

今回のNEURO2024は、日本神経化学会、日本神経科学学会、日本生物学的精神医学会の3学会による初めての合同大会でした。上述したように、合同大会ならではのスケールメリット、多様性及び異分野融合の面白さ等を、存分に楽しめる大会になったと思っています。ただ一方で、合同大会であったために、日本神経化学会大会の独自性・良い伝統が発揮し難かった点もあったと思います。単独大会だからこそ、また神経化学会大会の規模だからこそできること、例えば学生さんや若手に対するきめ細やかな指導やコメントのフィードバック、トコトンまで議論すること（日本語でも）などは、大規模な大会、また複数学会が乗り入れる合同大会で実現することは中々難しいと強く感じました。

合同大会と単独大会、どちらが良くて、どちらが悪い、と言う議論では無いです。どちらにも良い面、悪い面があります。今回、改めてそれらがよく見えてきましたので、今後どうするのかという大きな宿題が明確になったと思います。現在の私の立ち位置は、合同大会ではスケールメリットやダイバシティーの大きさを享受し、単独大会では徹底的に日本神経化学会の独自性を意識するのが良い、というものですが、そのバランスを今後どのようにするのか？ということはまだ答えがでていません。

日本神経科学学会と日本神経化学会は、これまで3年毎に合同大会を開催する、という口頭での取り決めに従って進めてきました。しかし今回のNEURO2024は、沖縄のNEURO2022の2年後に開催してしまいました。また、次の合同大会も2年後2026年に控えています。今後ずっと2年毎に行うと決めたわけではありません。これらのテストケースを経て、今後の合同大会、日本神経化学会大会の方向性を決めて行きたいと思っています。福岡宣言にも盛り込んだとおり、日本神経化学会は、分野融合の高い視座を持ち合同大会の有用性を認識しながらも、温故知新の精神を維持していきたいと思います。

最後に、今大会の大会長3名の相性が非常に良く、常に協力的、創造的、平和的に準備・運営を行うことが出来ました。岡部繁男先生、山末英典先生には心から感謝の意を表したいと思います。またプログラム委員長の田中謙二先生、実行委員長の津田誠先生はじめ、各種イベントの準備、実行で日本神経化学会の多くの先生方に創造的、献身的なご協力を頂きました。皆さん、本当に有り難うございました。心から感謝申し上げます。